

もくじ

1. スサノオノミコト 2
2. かさじぞう32
3. まのいいりょうし50
4. 雪女68
5. こぶとりじいさん90
6. うりこひめとあまんじゃく 108

スサノオノミコト

原作： 日本のお話

イラスト： イシイ アケミ

編集： YellowBirdProject

オロチの頭の一つが、口を大きく開けて、中のいけにえごと、籠を飲み込みました。

しかしその瞬間、オロチの頭が、内側から切り裂かれて、地面に落ちました。

『な、なんだ・・・なにが起こった!』

オロチの他の頭が、一斉に目を覚ましました。

切り捨てられ、地面に落ちたオロチの頭の中から、剣を構えた若い男が飛び出してきました。

『だれだ、貴様は!』

「我が名はスサノオノミコト!

人間に害をなす怪物め、この私が成敗してくれる!!!」

こうして、スサノオとオロチの戦いが始まりました。



じぞうさま かず ろくにん あ がさ いつ
しかし、お地蔵様の数は六人。編み笠は五つ。

ひと た
どうしても一つ足りません。

じぶん こし さ
そこでおじいさんは、自分の腰に下げていた、ぼろぼろ
て じぞうさま あたま かぶ
の手ぬぐいを、お地蔵様の頭に被せました。

つか ふる めのき
「使い古しの布切れですが、かんべんしてくだされ」

い ゆき つ やまみち ふたた
そう言うとおじいさんは、雪の積もった山道を、再び
ある はじ
歩き始めました。



わたし ゆきおんな わたし すがた み こと じ
「私は雪女。私の姿を見たものは、みな凍え死ぬ
ことになっている。しかし、お前はまだ若い。
こんかい みのが わたし み
今回だけは見逃してやろう。ここで私を見たことは、
けっ い
決してだれにも言っははいけない。わかったね・・・」

きち おそ へんじ
みの吉はあまりの恐ろしさに、返事もできないまま、
き うしな
気を失ってしまいました。

よくあさ きち め さ となり ねむ しげさく
翌朝、みの吉が目を覚ますと、隣で眠っていた茂作
が、こおり つめ し
氷のように冷たくなって死んでいました。

さくや できごと ゆめ
昨夜の出来事は、夢ではなかったのです。

きち いそ やま お
みの吉は急いで山を降りました。

いらい きち き よる はな
それ以来、みの吉はだれに聞かれても、あの夜の話しを
けっ くち
決して口にしませんでした。

